抜粋版

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No:24*

2004年7月

日本バスケットボール振興会

QUALITY ASSURANCE JIC
REGISTERED ORGANIZATION No.0430-ISO9001
ISO9001 認証取得

molten®

INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

FIBA JABBA JBL WJBL

■ＦＩＢＡ　(国際バスケットボール連盟)主催国際大会唯一の公式試合球/男子
■JABBA　(日本バスケットボール協会)主催大会公式試合球/男子
■ＪＢＬ　(バスケットボール日本リーグ機構)主催大会唯一の公式試合球
■ＷＪＢＬ　(バスケットボール女子日本リーグ機構)主催大会唯一の公式試合球
(2003 - 04シーズン)

MTB7AT　7号球　¥9,240(本体価格¥8,800)
国際公認球・検定球・貼り・天然皮革・ワイドチャネル
(表記の価格はメーカー希望小売価格)

株式会社 モルテン　東京本社　〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7　大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・モルテンUSA・モルテンヨーロッパ・モルテンタイランド・モルテンメキシコ　www.molten.co.jp

目　　次

○　アテネに羽ばたけ日本女子代表・・・・・・・・・・・　広報部　・・・・　3

○　ご健闘を祈る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　住田　正二　・・・１０

○　アテネ五輪を決めた日本女子・・・・・・・・・・・・　庄司　芳一　・・・１１

○　キリンカップバスケットボール２００４　・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

○　特　集
　日本協会大高広報部長に訊く・・・・・・・・・・・　広報部　・・・・１４

○　わが軌跡
　家庭婦人バスケットとの出会い・・・・・・・・・・・　堀内多喜子・・・１９

○　会員だより
　私とバスケットボールとの関わり・・・・・・・・・・　宍戸　　進・・・２１
　底辺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　森永　伸和・・・２３
　エンデバー制度に期待・・・・・・・・・・・・・・・　阿部　幸江・・・２５
　コーチの指揮が試合を左右する・・・・・・・・・・・　草階　勇人・・・２７

○　平成１６年度総会報告（概要）・・・・・・・・・・・・　広報部　・・・・・２９

○　訃報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
　阿部　正義さんに捧げる・・・・・・・・・・・・・・・仲内　豊造・・・３６

○　事務局だより　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

○　各団体主要スケジュール　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
　全国ママさんバスケットボール交歓大会
　全国高等学校バスケットボール選手権大会
　ＪＢＬ　２００４～２００５シーズンスケジュール
　ＷＪＢＬ　Ｗリーグ開催予定地一覧

アテネ五輪を決めた日本女子

日本バスケットボールの方向を決めた一戦

庄司　芳一

まずはアテネオリンピック出場に対して、心から“おめでとうございます”と言いたい。仙台アジア選手権開催がＳＡＲＳの関係で１月に変更されたことも好条件だったと思います。

そして正直なところ、監督、コーチ、選手はどうやって３位を確保するか、ということに重点をおいて臨んだのではないでしょうか。勿論日本協会もそうだったことと思います。

予選の韓国戦、中国戦を観てファンの目にはどう映ったことでしょう。私はテレビのチャンネルを変えたくなる戦いだったと思います。まず、不満なのは全てのプレイに全力を出し切っていないことでした。試合中、相手のボールに一歩でも近づいて、“絶対にマイボールにしてやる！”そんな気迫が見られたでしょうか？予選での不振はここにあったのではないかと思います。

大会中、前半で勝負が決まってしまったような試合がありましたが、ここで日本を救うような選手がでてきました。名前は立川真紗美選手。こま鼠のようにコート全体を所狭しと走り回る。攻めても守っても必ずボールのところに立川選手がいました。相手にとってこんないやな選手はいないと思いました。相手に速攻を出された場面でも、他の選手は次のプレイで頑張ればよいとも見えるジョギング走での戻り、立川選手一人だけが逆速攻にもめげず全速力でディフェンスに戻っていました。いつの間にか私はコート上の立川選手に釘付けにされました。

予選中国戦の最終ピリオドだけをみれば、とうとう若手で勝ってしまったのです。私はこのとき勝つために日本の進めるべきチームプレイは、これしかないことを悟りました。

中国や韓国のように平均身長で大きく差があるチームに立ち向かうには、「平面が立体を制す」ことですし、加藤廣志前能代工業高校監督の教えもそうでした。

私はこの戦法を、あのときの第４ピリオドで、内海監督がはたと気づいてくれたと思いたいのです。

そして準決勝の韓国戦、ハーフタイムに内海監督が立川選手を隣に呼び寄せて、「後半の戦いは立川お前に任せたよ」と言ったように見えたのは私だけではないと思います。

オリンピック行きを決めた翌日のテレビ、新聞、ラジオは、こぞって“スタート主力選手は３位決定戦用に温存、その副産物”とでもとれる解説が多かったようですが、私は違うと思っています。あの立川選手のようなプレイがいかに相手の嫌がるプレイか、そして立川選手が見せてくれた本来の基本プレイに他の４人がいつの間にか引きずりこまれ、全員の持ち味を１００％以上出すことにより、中国、韓国にも対等に立ち向かうことができるということが立証されました。

全力を出し切って１点２点を争う好ゲームと、選手が１００％以上の力で戦う試合こそ、バスケットボールを見る人々を魅了し、観客が会場を埋め尽くしてくれます。

そのことを信じての準決勝韓国戦の監督采配だったと私は信じています。これからの日

本バスケットボールのために、平面を制す第２第３の立川選手が１日も早く出てくる日が待ち遠しい限りです。

［振興会会員］

キリンカップ バスケットボール 2004

―― 女子日本代表がブルガリア代表と対戦 ――

１９９９年の開始以来、今年で６回目を迎える本大会では、世界の強豪チームとの対戦により日本代表の強化を図ってきました。今年はキリンビール株式会社とキリンビバレッジ株式会社の特別協賛により、男子日本代表に加え、女子日本代表の試合も行われます。

女子日本代表は出場が決定しているアテネオリンピックに向け、ヨーロッパの古豪ブルガリア代表と対戦します。アテネオリンピックでは世界ランキング上位のロシア、オーストラリア、ブラジルなど強豪チームが名前を連ねるグループＡに入ることが決定しており、まずは予選突破を目指して戦います。

女子日本代表はこの大会が国内最後の試合となり、アテネへ向けての壮行試合となりますので、皆で応援しましょう。

＜対戦スケジュール＞

第１戦

７月２９日（木）　仙台市体育館

開始時間　１７：２０　女子日本代表　ＶＳ　ブルガリア代表

１９：２０　男子日本代表　ＶＳ　イングランド代表

第２戦

７月３１日（土）　山形市総合スポーツセンター

開始時間　１３：００　女子日本代表　ＶＳ　ブルガリア代表

１５：００　男子日本代表　ＶＳ　イングランド代表

第３戦

８月　１日（日）　代々木第二体育館

開始時間　１３：００　女子日本代表　ＶＳ　ブルガリア代表

１５：３０　男子日本代表　ＶＳ　イングランド代表

特　集

―― 日本協会理事大高広報部長に訊く ――

担当：広報部会

最近、バスケットの記事があまり新聞に掲載されない、テレビでも放映されないという意見を多く耳にします。バスケットがもっと多くマスコミに取り上げられるには、どういう方向を目指せばよいかなどの問題について、日本協会の大高広報部長にお伺いしました。

大高　宏元氏
昭和１４年秋田県生まれ
早稲田大学卒業後、報知新聞運動部記者から朝日新聞運動部記者
朝日新聞東京本社運動部長など歴任、オリンピックアカデミー理事

―― 本日はお忙しいところ振興会にお越しいただき有難うございます。最初に振興会のことを説明させていただきます（略）。さて、まずは大高さんの現況からお伺いしたいと思いますが。

「協会理事に就任してあまり間が無いので、振興会のことにつきましてはよく分かりませんでした。現在私は、週に一度大学の非常勤講師を務めている以外は殆どフリーで、スポーツ関係のボランティアの仕事をしたり、大学で新聞のスポーツ欄に関する講演をしたりしています。昨年まで秋田の“さきがけスポーツ新聞”に、専門的なスポーツ記事を書いたりしていました。そういうわけでバスケットについては、どちらかといえば素人の方でただいま勉強中です。」

―― 広報部長については、今までバスケット界の外から採用したケースはあまり無かったように思いますが、大高さんのようなマスコミの専門家が広報部長に就任されたことは、大変画期的だと感じています。

「朝日新聞社には増田さんというバスケットに詳しい先輩記者がおられましたが、今回どうしたことか私にバスケット協会の役員が回ってきたのです。現役記者時代の専門はボクシングでファイテング原田の全盛時代でした。その後体育協会の記者クラブに詰め、体育行政関係の取材をして記事にしたこともあります。日本の体育行政のトップは文部省ですが、スポーツに対するバックアップは充分ではないと思います。日本のアマチュアスポーツ界はいつも資金不足で困っていますが、文部省はなかなか面倒を見てくれません。例えば、配当金をスポーツ振興に回そうという前提ではじめたサッカーくじにしても、当初の計画通りには売れておらず、赤字になるのは時間の問題です。ですからこういうものは管轄を民営化したほうがよいと思っています。」

―― スポーツ界について大変広い視野をお持ちのことと思います。ところで協会の広報部会は最近どのように運営されているのですか？

「広報の専任者は事務局職員の弘田君です。それ以外では実連、ＪＢＬ、ＷＪＢＬ、ママさん連盟などの各団体から約２０名位ご参加いただいて運営しています。平素は皆さん仕

事を持っておられますので、全日本総合の時など、必要な都度動員させていただいて仕事をしてもらいます。したがって平素の広報活動としては私が全部担当しています。」

―― 協会広報部として組織的に活動される上での方針などはありますか？

「2006年に日本で開催される世界選手権までにマスコミとのネットワークを構築し、バスケットを大いに報道し、宣伝していただかなくてはなりません。たまたまマスコミ界にいたので記者の方々とのパイプは持っておりますが、今まで各競技団体から情報サービスを受ける側にいたせいか結構難題にぶつかります。広報部会というきちんとした組織はありませんが、マスコミ界との人間関係を良くするために努力しています。協会の仕事は複雑で範囲も広く、どこまでが広報部のテリトリーなのかわからない部分もありますので、今のところどうしても実務中心の運営になります。」

―― テリトリーの話が出ましたが、例えばアテネオリンピックの女子バスケット代表選手団についてスタッフを含めた発表がまだありませんが、担当は広報なのでしょうか？強化なのでしょうか？

「どちらとも決まっていません。コーチと選手については既に決定して発表していますが、それ以外のスタッフが何名参加できるのか、いまだに決まらない状態ですので協会としても発表できないでいます。全競技にわたるオリンピック選手団の総人数が決定されておりませんので、すべての競技において付随するスタッフの人数は未定になっています。その枠の決定権は、上から文部省、日本体育協会、ＪＯＣにありますので、バスケットに何人のスタッフが認められるのかも割り当てられてみなければ分かりません。割り当て人数について、日本バスケットボール協会で予定している人数が認められればよいのですが、不足する場合は協会の費用で独自にアテネへ派遣してはどうかという意見もあります。そうは言っても公式のＩＤカードがなければ選手村に入ることもできませんし、ホテルなどの滞在費も非常に高く、一人１００万円以上の費用を捻出できるほど協会財政は豊かでありません。」

―― 広報要員をアテネに派遣することはできるのですか？

「いまのところテレビでバスケットを放映してくれる予定はありませんので、できれば広報要員を派遣したいと考えています。アテネオリンピックの出場権獲得時から広報専門の要員をつけるべく予算化をお願いしましたが、叶いませんでした。広報活動はどこからどこまでという基準がありませんので、まわりの理解を得ることも大変です。結論的には事務局職員の弘田君を広報要員として派遣する予定でいます。」

―― 協会として、広報の仕事はどの範囲でどういう仕事をやるのかという指針のようなものはありますか？

「ありません。他の競技団体も含めて広報活動がしっかりと行われているところは少ないようです。自分の種目に人気が出れば必然的にマスコミが取り上げて報道してくれるので、自分で広報しなくても専門家に取り上げてもらった方が効果があるということもあって、どの競技でもまず人気取りを一番に考えているようです。このたび女子のホッケーがオリンピック出場権を獲得した割には資金が無く困っていましたが、そのことがマスコミで報道されたら、あっという間に６０００万円の資金が集まったことをみても、マスコミ報道の効果の程が伺えます。」

―― バスケットはマスコミに取り上げられて報道されることが少ないようですが、どう感じられますか？

「確かに少ないと思います。各メディアの部長クラスに知合いが多いので、時々彼らにバ

スケットのことを取材して掲載してくれと頼んだりしますが、掲載しても読んでくれる人が少なければダメだと言われたりします。
商品的に言えば、いかに店を広げて商品をたくさん並べても、その商品が良い商品で価値が無ければ人は買いません。マスコミ界での日本のバスケット人気度は低く、女子ホッケーと並んで一番下位の扱いだといわれています。
女子バスケットでオリンピックの組み合わせが決まった時、予選リーグを突破できそうだから記事にしてくれるよう記者たちに頼み込みましたが、すぐにはいい返事をもらえませんでした。しかし偶然にもその日、他のスポーツ記事が無かったので結構取り上げて報道してもらえたことは幸いでした。
その後ホッケーやバレーなど他の女子球技が次々とオリンピック出場を決めたので、それ以来バスケットはまた扱ってもらえなくなってしまいました。」

―― 当該スポーツが国際的に強くて話題性がないと、記事として取り上げられないことは、前回私たちが開催した記者懇談会でも指摘されました。そうなると平素の“協会の考え方、方針、運営状況”などはマスコミに頼っていても記事にならないと思います。
そうなると、日頃のバスケット界内部のコミュニケーションは不十分となりますので、国内の関係組織や底辺層に対して別途広報する必要があるのではないでしょうか？
例えば、個人登録費の問題などは画期的なことでしたが、もっと上手くＰＲすれば皆が気持ちを込めて協力できる側面もあるのではと思いますが。ホームページで情報提供していることは知っていますが、インターネットを見ない人にはやはり文書的なものでないと徹底されませんね。

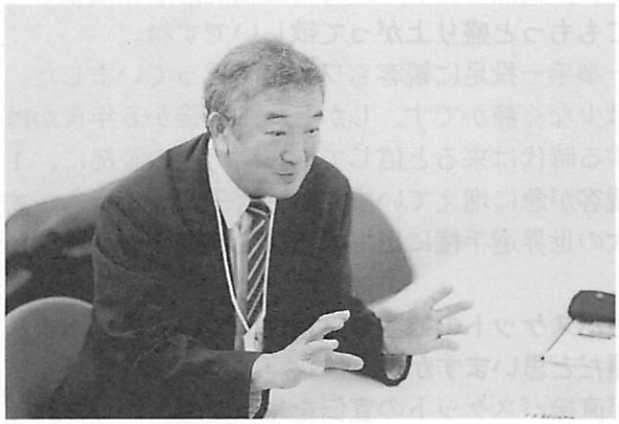
「そのとおりでＰＲ不足は否めないですね。昔は機関紙が発行されていて、細かなことも文書でＰＲされていたようですが現在はありません。また、一時バスケット専門誌に機関紙代替を依頼したこともありましたが、長続きしなかったようです。
例えば、個人登録の問題は、それによって集まった資金が強化費に回されて、その強化の結果が今回のオリンピック出場に繋がったのだということなどをアピールすべきですね。
特に小中学校などでは、担当の先生方にその辺を理解していただく必要があろうかと思います。また、一律方式ではなく、段階を設けて金額に差をつけるといったような工夫も必要だと思います。」

―― 振興会ではバスケットボールプラザという会報を年に３回発行して、全国都道府県協会理事長や各団体に無償で配布しています。必要であれば喜んで協力しますので利用していただいて結構なのですが。

「有難い話です。バスケット界は内部的に情報が網羅されていないという欠点があると思っています。協会独自の機関紙はあるに越したことは無いですが、現在の状況ですぐに発行することは無理です。私としては機関紙が無理ならば、マスコミにバスケットの方を向いてもらい、マスメディアによる情報伝達を心がけたいと思っているところです。」

―― 振興会は全てボランティアで会報を作って会員他に配布しています。編集方針も専門誌とはひと味違う方向で、日本のバスケットの発展に繋がるよう努力しています。幸い平素時間的に都合がつけられる方々に協力いただけるので、長続きもしています。協会で一般に流したい情報があれば頁を割きますので、広報活動の一環として利用してください。

「現在協会には個人登録で６０万人弱、チーム登録で約３万余が登録されています。非常に裾野も広く、とてつもなく大きな組織体になっています。しかも各組織がそれぞれに１年中何らかの活動をしていますので、その全てを中央で把握することは困難ですし、それらを取材して広報するには莫大な経費もかかります。その点から言えば各組織ごとに広報してもらう方がベターなのですが、そうなると情報提供を受けるマスコミ側としては重きを置かなくなることが欠点です。



写真提供　スポーツイベント

例えば、記者会見ひとつを取ってみましても、ホテルの会場を借りてひな壇を作り、スポンサーのパネルなどを掲げ、専門のアナウンサーを雇うと一度に１００万円単位の費用がかかってしまいます。かといって私たち素人が司会をやっても記者たちは見向きもしません。メディアブレークに金がかかりすぎることは話題性が少ないスポーツの悲しさでもあり、アマチュアにとっては非常に困難な課題です。

それならば国際的に強くなって、スター選手の面でも第二の田臥を作ろうとばかり、協会でもエンデバー計画を作成して、強化部が全国的に地道な活動をしていますが、そう簡単に次のスター選手ができるわけも無いので現実は厳しいです。

バレーのように東京オリンピック以降のメダル獲得実績でもあれば、テレビ局と組んでテレビスポーツとしてお茶の間に浸透することも可能ですが、国際的に今ひとつのバスケットはそうはいきません。かといって強引にスター選手を作るとなると、その良し悪しをめぐっての意見は分かれるところともなります。」

―― 過去にはバスケットも凄い人気があった時代もあったのですが。

「能代工業高校に田臥選手がいて大学を破った時や、エナジー、シャンソンの超２強時代など、それなりに観客も入って話題性があり、マスコミにも取り上げられていた時代はありました。日本人はオリンピックが好きですので、女子がオリンピックに出場する現在はマスコミに対して少し有利ですが、絶対的ではありません。アテネに行くという“商品価値”が取り上げられているわけですから、オリンピックが終わるとそれがなくなってしまいます。その“商品価値”に「オリンピックで勝つ」という“付加価値”をつけないと、客やマスコミはまた離れていってしまうと思います。」

―― その意味では、今年の“キリンカップ２００４”で女子代表が古豪ブルガリアと対戦しますので、結果如何では注目に値しますね。

「興行的に言えば今回の女子対戦はお客さんの興味を惹く大会で、商品価値もそれなりにあると踏んでいます。お客さんは入場料金というお金を払うのですから、その商品に価値をつけて観ていただくという時代になっていることは確かです。」

―― 今回バスケットボールプラザ２４号で女子代表選手を写真入りで紹介していますが、選手たちの話題性についてはどうですか？

「韓国に勝ってオリンピックの出場権を獲得したことは大変良かったのですが、話題性となると今ひとつだと記者たちに言われています。まじめで一生懸命練習することは勤勉性

もあって素晴らしいことなのですが、記者会見や個々の取材で通り一遍のことしか答えが無いといったところは悩みの種です。記者会見の方法も今までと全く違ってリラックスできるやり方で開催してみましたが、結果的に話題性は見つからなかったようです。今の時代、選手たちもアスリートとしての存在意識と、自己宣伝方法をもっと考えて欲しいですね。
良し悪しは別にして、バレーのような一種のタレント性も必要なのではないでしょうか」

―― バスケットは観客もおとなしいですね。白熱したゲームでも比較的静かに観戦しています。ＮＢＡとまではいかなくてももっと盛り上がって欲しいですね。

「その通りです。田臥が能代にいた頃は一挙手一投足に観客もワァワァ言っていました。今はＪＢＬの試合でもＷＪＢＬでも観客は少なく静かです。しかし、１年後か５年後かはわかりませんが、バスケット人気が沸騰する時代は来ると信じています。その証拠に、１月の全日本総合では試合カードがいいと観客が急に増えていますし、女子代表チームがオリンピックで決勝トーナメントに進み、次の世界選手権に出場する機会を捉えられれば、状況は変わってくるとみています。」

―― 前出の記者各位との懇談会の折にもバスケットの観客や話題性について話が出ました。協会の広報としても難しい課題だと思いますが。

「確かに難しい課題です。協会の広報部が直接バスケットの宣伝をやってもたかが知れていて、一般マスメディアに肩を並べることは到底できません。企業が広告宣伝の媒体に新聞やテレビを使うのと同じように、バスケットがそこで取り上げられないと人気沸騰には繋がりません。それには目玉となるような出来事や、話題性がある商品が必要です。私もマスコミ界の出身ですのでそれなりに努力しますが、指導者や選手の皆さんも是非そのことに気を配っていただきたいと願っています。こんなつまらないことと思えることでも、マスコミから見れば記事になるということもありますので、情報についてはできるだけ開示していただきたいと思います。」

―― マスコミに、より多く取り上げてもらうには、まだいろいろと問題が残されているように思います。振興会でもできることがあれば協力しますので、遠慮なくお申し出ください。本日は大変有意義な懇談ができたことを感謝いたします。

わ が 軌 跡

家庭婦人バスケットとの出会い

堀内　多喜子

現在、私はママさんのバスケットボールチームに所属し、シニアのチームでプレイをしていますが、このママさんバスケットボールを始めるきっかけとなったのは主人の言葉にあります。

中学、高校とバスケットを楽しみ、社会人になってすぐにクラブチームにも所属して練習をしておりましたが、そのとき主人と出会って、まもなく結婚となりました。まだ二十歳でしたが、バスケットボールとも離れなければなりませんでした。

主人も学生の頃からプレイをしており、クラブチームの責任者をしながら地元協会の役員、また審判と毎日“バスケット漬け”の生活を楽しんでいる人でしたので、家庭に入って子供を一人産み終えた私のために、須坂市にママさんのバスケットチームを結成してくれました。当初は新聞などで呼びかけ、長い間バスケットを離れている人たち５～６人でスタートしました。現在の須坂クラブの誕生です。その後は結婚された方々がクラブチームから徐々に集まってくれ、今年で２３年を迎えました。当時長野県では、ママさんのチームは長野クラブができたばかりで、須坂クラブは県の中でも古いチームとなっています。

過去には何回か全国ママさん交歓大会にも参加させてもらい、ブロック優勝も味わせていただきました。

主人の“ママさんチームならおまえでも試合ができるぞ”と言ってくれた一言が私の思い出の言葉となり、２３年経った今でもバスケットに関わっていることができているのです。

“家庭よりバスケット”の私たち夫婦には３人の子供たちがおりますが、まだお乳をあげている頃から練習も大会も子連れでした。床を突くボールの音が子守唄の環境で育ったせいか、３人とも自然に小学校からバスケットに親しみを持ってくれて、家の庭に設置したバスケットリングも毎日子供たちによって充分に活用されておりました。

中学へ行ってもバスケットは生活の中心になり、特に高校では３人全員が家から離れた寮生活を選び、厳しいバスケットの道を歩んでくれました。上の子供２人は卒業して現在は社会人となりましたが、下の子は大学生で今でもプレイ中です。この子供たちもいつか須坂市に戻ってきて、主人のように地域のバスケット発展のため何かお役に立ってくれるものと信じております。

主人も私も長野県の家庭婦人バスケットボール連盟の役員をやらせていただいております。この県連盟も発足から２３年を迎えました。須坂クラブの歴史もこの連盟と共に歩んでまいりました。新しいことを始める発足の時から関わりを持たせていただき、現在のしっかりした規約のもとで運営されるようになるまでは大変な努力がありました。大きな団体運営の経験は勿論、大きな大会の経験もない私にはすべてが良い勉強になりました。経験豊かな先輩方に引っ張っていただきながら、事務局という大役を続けてくることができました。

毎年細かい問題点がたくさんあがって、そのたび皆で話し合い、より良い連盟にと発展

してきました。私はこの連盟の中で新しく大会を作る難しさは勿論、運営、資金など様々な面でプレイヤーだけではわからない役員の仕事の大切さを学びました。大会が無事終わったうれしさを一番強く感じたのは、第９回に開催させていただいた全国ママさんバスケットボール交歓大会の須坂大会です。長野県協会、須坂市協会、県家庭婦人連盟の皆様に多大なご協力、ご支援をいただき、無事に大会を終えることができました。

当時の須坂市は大会会場も宿泊施設も整っておらずご迷惑をおかけしましたが、ただおもてなしの心だけはお伝えしたいと強く願っていました。

大会会場の設営から宿泊にいたるまで、あらゆる準備に何ヶ月もかかわっていたせいか、最終日の片づけが終わると自然に涙が出てきて、そのうち止まらなくなって溢れてしまったほど感激したことを、今でもはっきりと覚えています。

この貴重な体験をもとに現在の家庭婦人県大会では、スムーズに大会が運営されるには何を準備しておくかなど、見えない部分まで気を配れるようになりました。そして何より連盟の理事長さん始め役員の皆さんとの交流の輪がどんどん広がっていく喜びを感じています。

長く続けることが一番、とよく娘にも言いますが、プレイがうまくても、そうでなくても、とにかく続けることだと思います。ここ何年か日本スポーツマスターズの大会を見させていただいておりますが、３５歳を過ぎてもはつらつとプレイされている姿を見ると、自分の娘が家庭婦人になってもバスケットを続けて欲しいと願ってしまいます。勝つバスケットから年齢に応じて楽しむバスケットに変わってきます。そこで勝つことができれば最高ですが、自分の持てる力を出して全員で頑張ることに楽しさを感じます。

私はシニアチームですが、ルールにしてもシニアらしくとてもよく考えて下さっています。また、５０歳になっても６０歳になっても参加できる大会も開催されていますので、生涯プレイヤーでいることもできます。長野県のママさんは白谷理事長の後ろ姿をみておりますので、全員６０歳を過ぎても続けていくことでしょう。皆が楽しめる道を拓いてくださった日本家庭婦人連盟の役員の方々に心より感謝申し上げます。

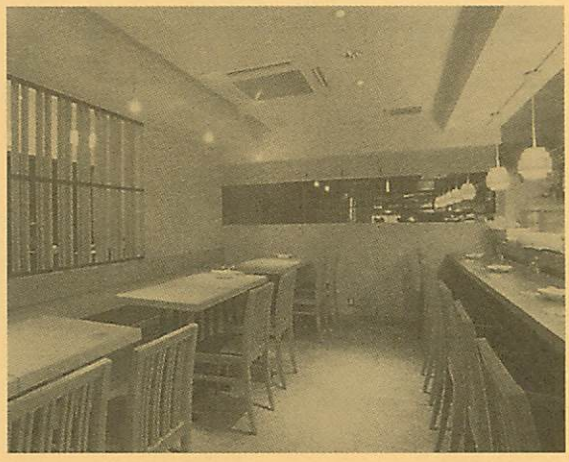
［振興会会員］

八詩（はちうた）

BISTRO・HACHI-UTA

BISTRO八詩

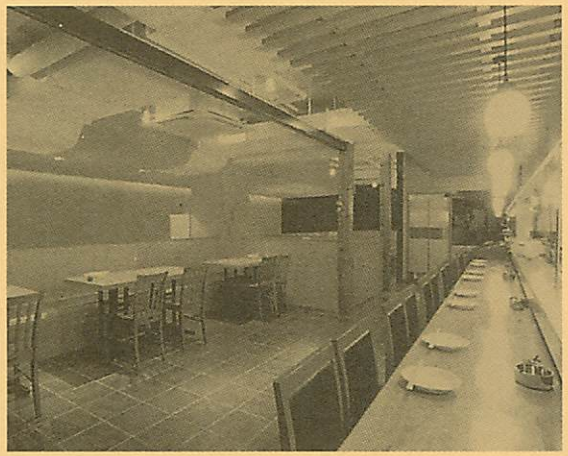
渋谷の喧騒を忘れそうな和める空間で、旬の素材を。

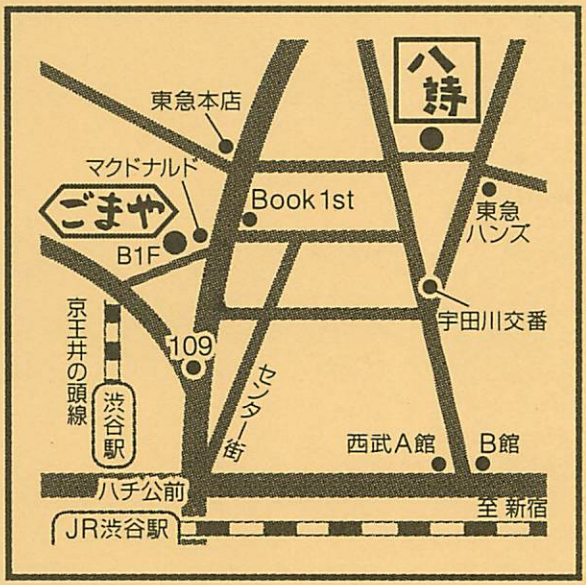


ごまや

BISTROごまや

渋谷の真ん中と思えない、まるで大人の隠れ家。

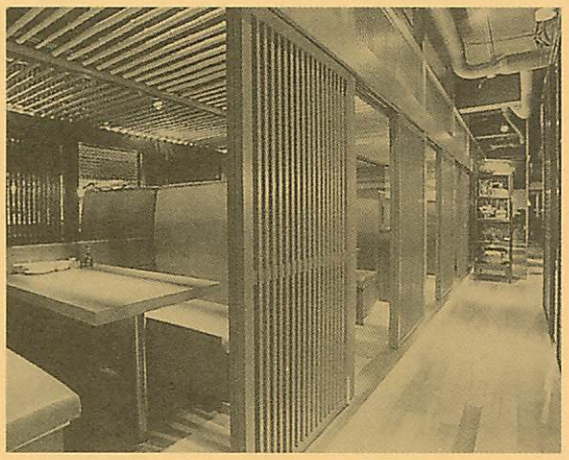


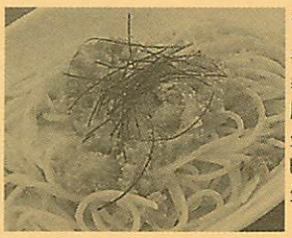


ごまや

BISTROごまや・新宿店

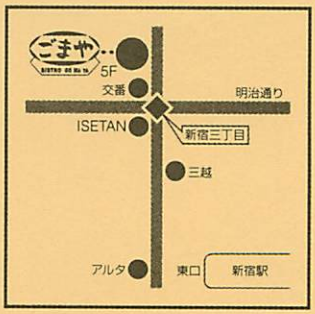
素材にこだわった料理とひとときを、和みの空間で。





おすすめメニュー

手造り胡麻豆富
季節の野菜で胡麻よごし
豚肉ニンニク味噌巻き
生タコの青のり揚げ
ピリッと胡麻の葉炒飯
生ウニたっぷりスパゲッティー



東京都新宿区新宿3-4-1
カルムビル5F
tel:03-5269-8158
Open 11:30～Last Order 22:45
"年中無休"〈120席(個室大小12部屋)〉

JACKPOT GROUP OFFICE ジャックポット グループ・オフィス
〒155-0032 東京都世田谷区代沢5-35-8 岩瀬ビル1F
TEL 03-3413-9555 / FAX 03-3412-7332 www.jack-pot.co.jp

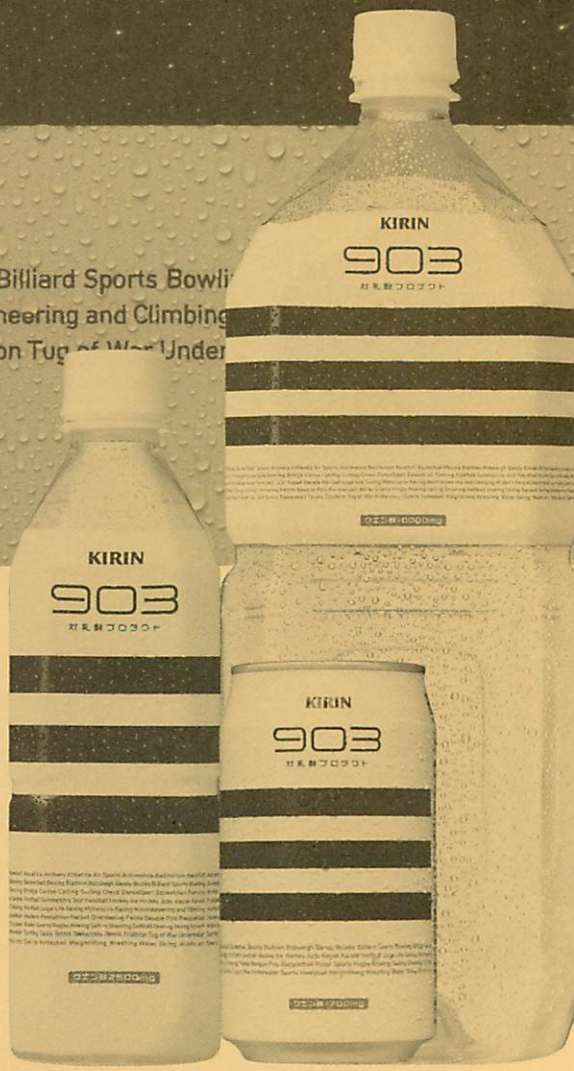
KIRIN Beverage ホームページ http://www.beverage.co.jp

のんだあとはリサイクル

903

Automobile Badminton Baseball Basketball Boxing Biathlon Bobsleigh Bandy Boules Billiard Sports Bowli
key Ice Hockey Judo Kayak Karate Korfball Luge Life Saving Motorcycle Racing Mountaineering and Climbing
ooting Softball Skating Skiing Squash Surfing Table Tennis Taekwondo Tennis Triathlon Tug of War Under

対乳酸にはクエン酸。



スポーツのライバルは乳酸だった。アディダス ジャパン 共同開発プロダクト。 キリンビバレッジ